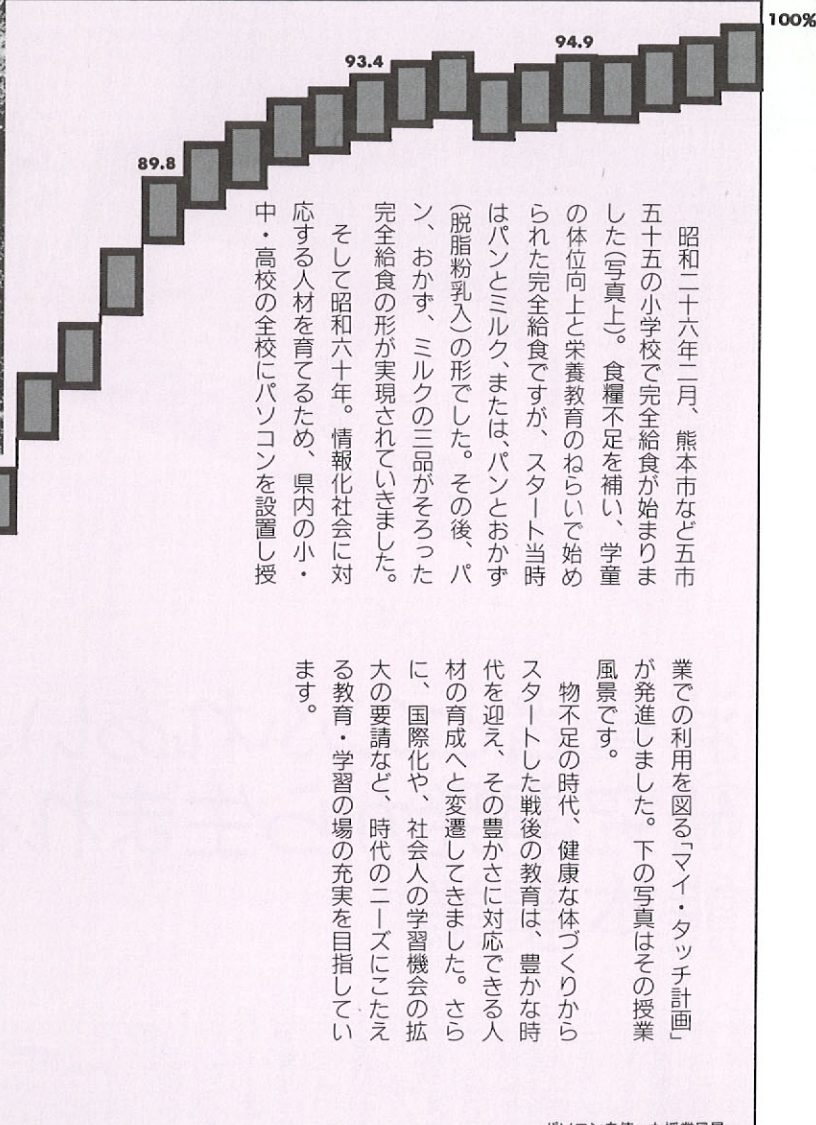


# 社会のニーズに こたえて歩む教育現場

530 35 40 45 50 55 60 H元 100%



給食が始まった当時の給食準備の様子  
(写真提供:熊本日日新聞社)



高校進学率

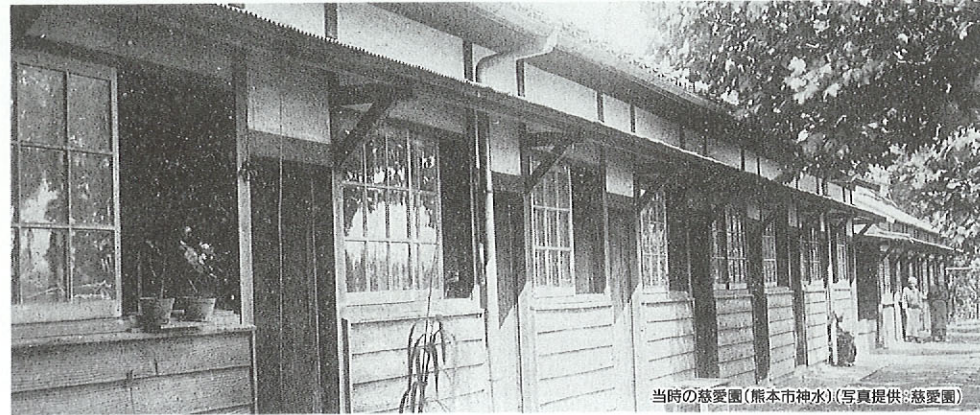
昭和二十六年二月、熊本市など五市五十五の小学校で完全給食が始まりました(写真上)。食糧不足を補い、学童の体位向上と栄養教育のねらいで始められた完全給食ですが、スタート当時はパンとミルク、または、パンとおかず(脱脂粉乳入)の形でした。その後、パン、おかず、ミルクの三品がそろった完全給食の形が実現されていきました。そして昭和六十年、情報化社会に対応する人材を育てるため、県内の小・中・高校の全校にパソコンを設置し授

業での利用を図る「マイ・タッチ計画」が発進しました。下の写真はその授業風景です。物不足の時代、健康な体づくりからスタートした戦後の教育は、豊かな時代を迎え、その豊かさに対応できる人材の育成へと変遷してきました。さらに、国際化や、社会人の学習機会の拡大の要請など、時代のニーズにこたえる教育・学習の場の充実を目指しています。

パソコンを使った授業風景



# 地域の中で 安心して暮らせる 福祉社会へ

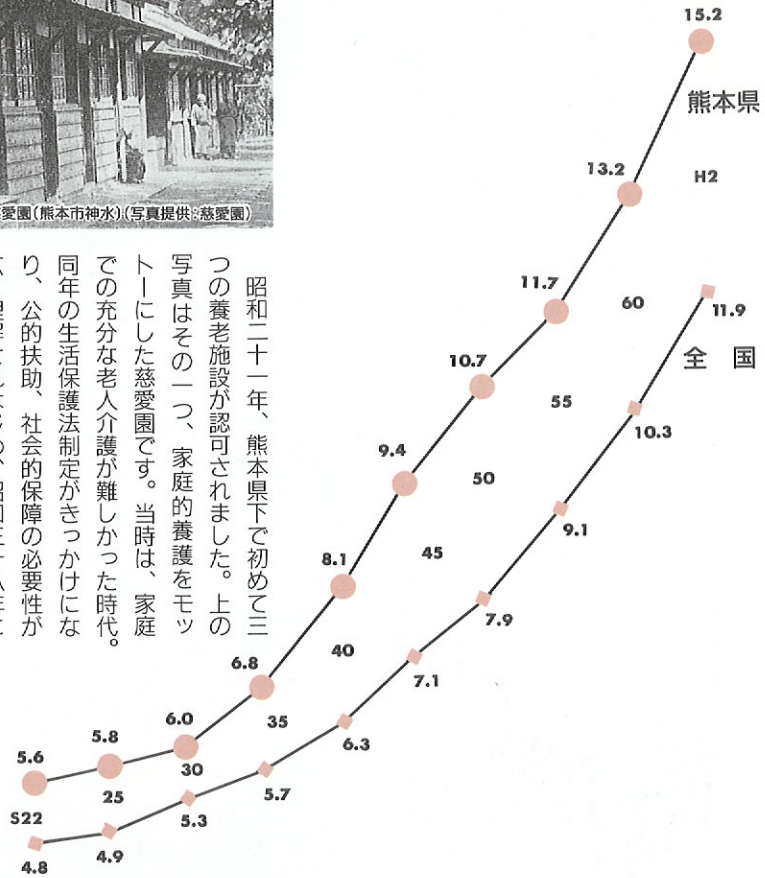


当時の慈愛園(熊本市神水)(写真提供:慈愛園)

昭和二十一年、熊本県下で初めて三つの養老施設が認可されました。上の写真はその一つ、家庭的養護をモットーにした慈愛園です。当時は、家庭での十分な老人介護が難しかった時代。同年の生活保護法制定がきっかけになり、公的扶助、社会的保障の必要性が広く理解されはじめ、昭和三十八年には老人福祉法が制定されました。この法律により養老施設は、養護老人ホームへと移行しました。

下の写真は昭和六十三年のシルバークンフェア'88。「高齢から好齢へ」をテーマに合唱コンクール、シルバークンフェア、シルバークンショーなど多彩な催しが行われ、積極的に社会参加していこうという、新しいライフスタイルが提案されました。

高齢化率の推移 (65歳以上)



シルバークンフェア '88

COLOR GX 100  
くまもとの  
戦後史を歩く  
写真で見る今昔  
今 NEW photograph OLD 昔  
24 24A